

わたなべ英治県政だより

討議資料

発行：渡部英治政務調査オフィス

〈第13号〉

2018年4月

「元気の出る大曲仙北・秋田」の実現へ!

皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、皆様のおかげにより再度県政の場に送っていただいてから早いもので3年が経過しましたが、この度の2月議会において、会派“みらい”の代表として人口減少対策や秋田の魅力アップ、農業政策などについて質問を行いました。

今後も、地元の皆様の声を県政に反映することを何よりも大切に、県政課題に果敢にチャレンジしてまいります。

そして、「元気の出る大曲仙北・秋田」の実現をめざし、全力で頑張る所存であります。皆様には引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。



平成30年2月議会 代表質問

秋田県議会
会派みらい代表

渡部英治

～堀井副知事を迎えて～

わたなべ英治県政報告会 交流会の開催



とき ■平成30年5月20日(日)午後3時～

ところ ■大曲エンパイヤホテル(大仙市大曲白金町8-17)

テーマ ■「県政課題について」

1. 人口減少問題について

—あきた未来創造部の効果について—

渡部 国の提唱する地方創生が進まず、東京圏へ人口が集中する東京一極集中が続く、地方の人口流出に歯止めがかかっていない状況下において、人口減少問題に集中的に取り組む部署として、昨年4月に設置されたのが、「あきた未来創造部」でした。

全国で初の人口減少対策専門部として注目され、「攻め」と「守り」の視点で、スピード感をもって「若者や女性の定住促進」と「魅力的な雇用の場創出」など重点施策を強力に推進しようと、佐竹知事の肝入りでスタートしてから、間もなく一年が経とうとしております。

しかし、県人口は昨年4月に100万人の大台を割り、その後も減り続け、今年1月1日現在では99万2,046人とさらに減少しています。このまま推移すれば98万人台が目前に迫るような状況です。

果して、新部設置のねらい通りの評価ができるのか、知事はどのように総括しているのか、お聞かせください。

また、本県の将来を担う若者の地元定着には、企業も行政もデータを集めて分析するだけではいけません。

対策を掲げ、実践していかなければ成果は得られません。

つまり、あきた未来創造部は実践部隊として具体的に動く専門部にしなければ実効性は得られないと考えますが、知事のご所見をお聞かせ下さい。

知事

もとより、本県の人口減少は歴史的推移の中で人口構成の高齢化に伴う自然減が大きな要因となり、全体的に当面の減少は避けられませんが、現在進行形としては長年続く若者の県外転出が次の世代の若者の減少をもたらしているという相乗的なものに起因しており、その抑制を図る施策が、人口動向に成果として現れるまでには一定の期間を要するため、粘り強い取組が必要であると考えております。

このような中、現時点では移住者数、Aターン就職者数、高校生の県内就職内定率が前年を上回っているほか、輸送機関連の有力企業の誘致に加え、今後の自動車EV化を見据えた、県内の電子工業関連企業の雇用の拡大や設備投資の増大など、明るい兆しが見えてきており、この流れを確かなものにする取組を重ねることが、人口減少の克服につながっていくものと考えております。

第3期プランでは、6つの重点戦略のトップに「秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略」を掲げ、来年度は、Aターン就職のマッチング強化のため



〔第1班〕

平成30年第1回定例会2月議会 代表質問項目

- ◎ 第3期ふるさと秋田元気創造プラン・「高質な田舎」について
- ◎ 知事の政治姿勢について
 - 1 危機管理について
 - 2 イーゼリス・アシアアについて
 - 3 エネルギー政策について
 - (1) 再生可能エネルギーの状況と対応について
 - (2) 石炭火力発電所の状況について
 - (3) 原子力について
- ◎ 人口減少対策について
 - 1 あきた未来創造部の効果について
 - 2 農学部への誘致について
- ◎ 秋田の魅力アップについて
- ◎ スタジアム整備について
- ◎ 農業政策について
 - 1 JAの役割と連携のあり方について
 - 2 周年農業の拡大について
- ◎ その他

のシステム再構築や、子育て世代の経済的負担を軽減する保育料助成の拡充、女性が働きやすい職場環境をつくる「あきた女性活躍・両立支援センター（仮称）」の設置などを行うことしております。

事業実施に当たっては、あきた未来創造部が常にその時々の状況を踏まえ、フレキシブルに事案に対応する実行部隊となっており、庁内各部との連携はもとより、市町村、企業、関係団体等からご協力をいただきながら関連施策の実効性を高め、成果に結びつけてまいります。

2. 農業政策について

—JAの役割と連携のあり方について—

渡部

国の農政改革など、水田農業を巡る状況が大きく変わる中、今後、JAはより大きな役割を担っていく必要があると考えています。

しかし、農業の競争力強化に向けた取組を着実に推進しなければならない矢先に、私の地元であるJA秋田おばこの巨額赤字問題が発生しました。

大変、残念でショッキングな問題ですが、農家の不満と不安を解消するためにも一日も早い解決が求められています。とにかく農家の皆様がやる気を無くさないよう、秋田県農業のイメージダウンにならないよう、



〔第2班〕

万全の体制で臨んでもらいたいと考えますが、県の対応について、知事のご所見をお聞かせ下さい。

JAは、農作物の生産指導から販売までを担うとともに、農家生活に関わる様々な事業展開により、農業・農村の発展に貢献してきました。

枝豆日本一の達成は、まさに県とJAグループが一体となったオール秋田での取組の成果であり、園芸メガ団地の全県展開についても、その多くは各JAが事業主体となって取り組んでおり、産出額の増大として現われております。

平成30年からは、米の生産数量目標の配分が廃止され需要に応じた新たな米づくりがスタートします。米を基幹とする本県農業は大きな転換期を迎えることとなり、県産米の生産と販売のメインプレイヤーであるJAへの期待は大きいと言えます。

改正農協法の下で自己改革を進めるJAグループの本県農業の果たす役割と来年度からスタートする第3期ふるさと秋田農林水産ビジョンの目指す姿の実現に向け、県としてJAグループとどのような形で連携し、農業施策を展開していくのか、知事のご所見をお聞かせ下さい。

知事

県では、現在、本県農業の持続的な発展に向け、複合型生産構造への転換を加速するとともに、秋田米の戦略的な生産・販売を強化するなど、農業の成長産業化に全力を挙げて取り組んでおります。

JAについては、こうした政策を推進するに当たっての重要なパートナーと位置づけ、今後、立地条件や市場動向等を踏まえ、複合化をリードする重点品目を定めながら産地拡大を図るとともに、米についても業務用米や契約栽培の拡大など、需要と結びついた戦略的な米づくりを、農家の先頭に立って強力に進めていただくことを期待しております。

県としても、JAの意欲的な取組に対し、メガ団地事業や夢プラン事業等により後押しし、3期プランに掲げる本県農業の成長産業化に向け、共に邁進してまいります。

また、JA秋田おばこの問題は、全国屈指の米取扱高を誇るJAにおいて、しかも生産調整の仕組が大きく変わろうとしている時期に発生した事案であり、その影響は組合員や地元仙北地域のみならず、JAグループや秋田米全体の不信にもつながりかねないもので、極めて遺憾であります。

この問題は、単にJAの不祥事ではなく、農協組織全体の存在意義さえ問われている事案であると重く受け止め、JAグループの総力を挙げて対処してもらいたいと考えております。

県といたしましても、JA秋田おばこが、1日も早く経営を立て直し、農家の不安が払拭されるよう、引続き職員を派遣し、国と連携しながら、まずは全容の解明と経営改善計画の策定に向けた指導を強化してまいります。

■代表質問傍聴後の知事との記念写真（平成30年2月20日）

渡部英治の県議会レポート

～代表質問より～
(30年2月議会)

『2月議会代表質問』より新聞記事について紹介します。

※平成30年2月21日／秋田魁新報記事より

未来創造部の効果は



渡部英治氏

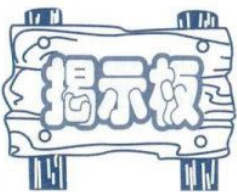
(みらい・大仙市仙北郡)

◆JA 秋田おばこの巨額累積赤字と未収金問題に県としてどのように対応するのか。

知事 単に一 JA の不祥事ではなく、農協組織全体の存在意義さえ問われる事案と重く受け止め、総力を挙げて対処してもらいたい。県としては、一日も早く経営を立て直し、農家の不安が払拭(ふっしょく)されるように、職員を派遣し、まずは全容解明と経営改善計画の策定に向けた指導を強化していく。

◆昨年4月に設置した「あきた未来創造部」の効果は。

知事 現時点で移住者数や A ターン就職者数などが前年を上回っているほか、輸送機関連の有力企業の誘致など明るい兆しが見えてきている。部がその時々々の状況を踏まえ柔軟に対応する実行部隊となって関連施策の実効性を高め、成果に結び付けていく。



◆わたなべ英治後援会グラウンドゴルフ交流大会◆ 第10回記念大会 7月9日(月) 開催予定

※ 詳細については改めてご案内します

「わたなべ英治」ホームページ開設中!



わたなべ英治 を 検索 クリック。

「活動報告」「プロフィール」などを掲載しております。



「わたなべ英治後援会」事務所のお知らせ

住 所：大仙市大曲上栄町11-9
(仙北地域振興局の西門向かい)

電 話：0187-66-1700
FAX：0187-73-5625



●知事の政治姿勢について

県議会 記者席

○：渡部英治氏(みらい)が、昨年夏の佐竹敏久知事のゴルフ旅行問題を取り上げ、知事が当時の会見で「かみさんにも叱られた」などと発言していたことを疑問視した。

「知事を『秋田のコロンボ』かと思う」と切り出した渡部氏。米国のドラマ「刑事コロンボ」の主人公が「うちのかみさんがね」を名ぜりふにしていたとし「知事が公の場で『うちのかみさん』と口にするたび、ど

「かみさん」発言に苦言

こを向いて仕事をしているのかと感じる」と指摘。家庭ではなく県民を向くべきだとした。
これに対し、佐竹知事は「妻には県民の意見が直接伝えられることが多い。県民目線の厳しい言葉が妻を介して私に伝えられているとの趣旨だ」と、「かみさん」発言の意図を説明した。
質疑後、渡部氏は「県のトップが家庭の話を外でなくても…。自分で県民の声を直接聞く機会を増やせばいい」と話した。

(相沢一浩)